

## 事務事業計画書兼評価表(A表)

<b>1 事務事業に関する基本情報</b>				平成	26	年度	
事業番号	837		事業名	若桜鉄道対策費			
担当課	企画課		担当係	若桜鉄道運行対策室			
総合計画に最も関連ある施策	施策	3	自然と共生した快適で安全なまちづくり	連絡先	0858-76-0212		
	施策体系	2	公共交通網の整備	事業区分	□新規 ■継続		
	主な事業	若桜鉄道対策事業			事業実施主体	■八頭町 □その他	
予算区分	款	2	総務費	計画期間		開始	平成21年度
	項	1	総務管理費			終了	—
	目	21	若桜鉄道対策費				
	事業	837	若桜鉄道対策費				

### 2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載。 八頭町民、鉄道利用者				
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載。 若桜鉄道利用客の利便性向上及び安全安定した鉄道運行の維持。また、若桜鉄道(株)の経営安定化を図るため。				
事業の内容	事業の規模や業務量などを具体的に記載。 地域公共交通確保維持改善事業(国庫補助事業)による、軌道設備の更新。 鉄道施設保守管理業務等による軌道設備の維持管理や駅舎等管理業務。				
事業の手段	どうする方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載。 軌道設備の更新や軌道設備の維持管理に関しては、若桜鉄道(株)に業務委託を行い実施。駅舎管理等は町で直接管理。				
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載。 安全で安定した鉄道輸送の確保と公共交通網の整備を行うことにより、町民の利便性の向上が図られる。若桜鉄道(株)の黒字化。				
根拠法令等	1	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし		法令等名→	鉄道事業法

### 3 活動指標、成果指標

活動指標		単位	事業の手段を図るものさし		
	A	人	輸送人員		
	B				
	C				
	D				
成果指標		単位	事業の成果、到達点を図るものさし		
	A	千円	若桜鉄道(株)経営収支		
	B				
	C				
	D				

### 4 コスト

区分		単位	23年度	24年度	25年度		26年度		27年度
			実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	A	人	419,801	395,794	372,185	415,763	361,320	346,658	415,000
	B								
	C								
	D								
成果指標	A	千円	785	△ 4,738	101	△ 10,794	8,284	△ 33,430	100
	B								
	C								
	D								
トータルコスト		千円	115,652	124,085	122,267	128,528	137,267	118,390	126,095
担当職員数		人	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
職員人件費		千円	8,200	8,200	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
事業費		千円	107,452	115,885	114,267	120,528	129,267	110,390	118,095
事業費財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円	13,393	15,639	18,963	28,435	34,567	25,710	30,600
	県支出金(交付金・補助金)	千円	21,733	21,159	27,917	24,178	27,801	18,852	19,096
	地方債(借入金)	千円	9,100	11,400	10,600	13,300	11,900	33,900	34,700
	事業収入(使用料・参加費等)	千円	24,020	28,651	29,675	27,423	29,274	29,321	31,284
	一般財源(単町費)	千円	39,206	39,036	27,112	27,192	25,725	2,607	2,415

## 事務事業計画書兼評価表(B表)

### 5 実施活動内容・成果(到達点)

平成 26 年度

実施活動内容・ 成果(到達点)	実施活動内容(具体的に)
	軌道維持管理及び軌道設備の更新し、地域における公共交通の維持・確保を行った。
	成果(具体的に)
	鉄道輸送の確保と公共交通網の整備を行うことにより、町民の利便性の向上を図った。

### 6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
<b>必要性</b> (町民ニーズ)	13	20	①必要性が高い	高校生の通学輸送や冬季の大量輸送を確保する必要があるため。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
<b>妥当性</b> (町が行わなければならないか)	13	20	①町が行わないといけない	鉄道事業再構築事業計画にて平成30年度までは、八頭町が第三種鉄道事業者となり運行を確保するため。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
<b>効率性</b> (コスト削減の余地は無いか)	7	20	①効率的である	鉄道事業は特殊装置が多いため施工事業者等少ないことから、コスト面では非効率と思われる。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
<b>緊急性</b> (他事業に優先し実施する必要があるか)	13	20	①緊急性が高い	冬場の大量輸送を確保する必要がある、比較的緊急性がある。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
<b>成果</b> (目的の達成状況)	7	20	①成果が上がっている	乗車人員が減少しており、経営収支が厳しい状況にある。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	

一次評価	事業の方向性	点数	評価点合計	判定に至った理由
<b>3</b>	1、拡充する	80点以上	<b>53</b>	安全な輸送を確保しており、快適な住民生活の安定に寄与している。しかしながら運行を実施している若桜鉄道(株)は、平成26年度も赤字決算となり、赤字解消のための営業努力や歳出削減策の実施が必要である。
	2、現状維持	60～79点		
	3、改善・効率化し継続	50～59点	<b>3</b>	
	4、見直しの上縮小する	40～49点		
	5、終期設定し終了	30～39点		
	6、休止	20～29点		
	7、廃止	19点以下		

二次評価	事業の方向性	判定説明・意見
<b>3</b>	1、拡充する	中山間地域における本鉄道は公共交通機関としての役割は重要で、町民の利便性の向上の面からも維持管理と設備の更新により、安全の運行を行うことが大切です。しかし利用者の減少と中学校等の通学利用等が見込めない事等から利用促進の啓発やイベントの企画による集客策が必要です。今後は、公共交通の在り方の検討や再構築計画による見直しにより、黒字への転換を図られたい。
	2、現状維持	
	3、改善・効率化し継続	
	4、見直しの上縮小する	
	5、終期設定し終了	
	6、休止	
	7、廃止	

### 7 課題及び今後の方向性

課題	事業活動に当たり、一番の問題と捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所 乗車人員を増やし、旅客収入の増額策を講じることが必要であり、併せて若桜鉄道(株)のコストを削減する必要もある。
今後の方向性	上記課題を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか 様々な企画イベントを実施するなど、観光施策にて旅客収入の増額を図る。また、沿線地域の利用者の利便性を向上させ、多くの地元の方に利用していただける交通機関となるよう利用促進を啓発する。